

リスザルの人工保育

「新しいサル像をめざして」(2002)

京都大学霊長類研究所人類進化モデル研究センター 編

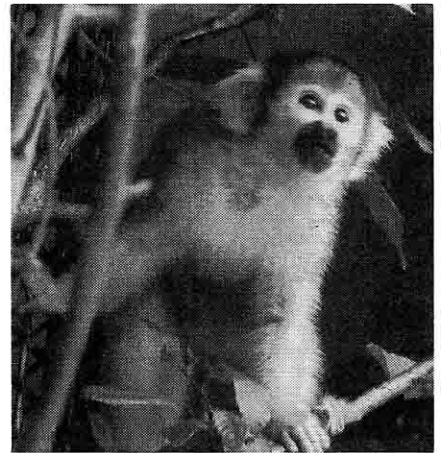
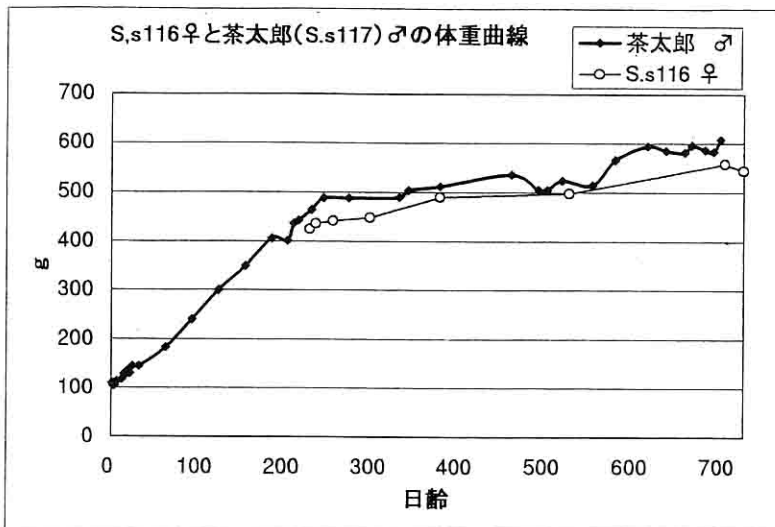
松林伸子

1998年6月11日にTPCから供与を受けた4頭(♂2、♀2)のコモンリスザルから2仔が誕生し、現在2歳となり、子供2頭で活発に遊んでいる。

Ss-116 ♀ '99 6, 17 出生(母 112、父 114) 自然保育

Ss-117 ♂ '99 7, 12 出生(母 113、父 115?) 人工保育 名前: 茶太郎

Ss-117♂は、出生直後から母親が全く触ろうともしなかった為、やむを得ず人工保育で育てる事になった。コモンリスザルの人工保育は、センターとしては初めての経験であったが、丈夫に生まれついた個体だったようで何一つトラブル無しで2歳の誕生日を迎えることが出来た。現在は施設-11の5頭のリスザルグループの中で元気に暮らしている。



リスザル
名前 茶太郎
1999/7/17 生

他種の人工保育個体と比較し、茶太郎は(単に個体の特徴かもしれないが)保育者に対する甘えが少なく陽気であっさりした性格と、太くてよく動く尻尾を使って活発に運動しひとり遊びすることが印象に残っている。「茶太郎」という和風の名前は、センターの加藤さんが、実験者の方のお名前にあやかって付けてくれた。平日の飼育、診療、検査、研究業務をこなしながらの、更に昼夜、休日を問わないのが人工保育の作業である。

加藤さん、前田さん、茶谷さん、脇さん、お忙しいなか、茶太郎の毎日の保育を分担して頂き、心からの御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

(まつばやし のぶこ、京都大学霊長類研究所人類進化モデル研究センター)